迴国一歌雨巻之二

(一) 生死とも歌問答

甲斐信玄公御代の頃、秩山伯耆守宿へ客人来りて、
のどかなるうちにも秋の雨中の戯れとて、
こそうしく信の晴れうる間も十月ともすれば雪降りて、
十二月ともなればとても心ぐるしくそうろう。
さりながらくと洞にありてもろもろの人々と清の談話
なくなく友待つ暮くしお慰とこそ申しひそかに家僕もつ
わけなれよりの人数召連れ参りけびまれさのよそほしくもわれん
雅さりの道芝露の分よさそうち侍わやこれら稚部と打

(六)

難波の秋田に雪降りの男

(八)

宿すー あうぶくけうまーそ欲にうい
ほっと笑ひやづまー